

東灘高校  
(兵庫・県立)

実践事例レポート

自己肯定感を高めた取り組み

地域と連携していねいに行う体験活動が  
生徒の自己肯定感を高め、  
高校生活の充実感や将来志向を促す

「どうせ自分なんて」という意識を変えるために

42回生学年主任  
井上珠郁先生教頭  
高本正道先生校長  
福本 貢先生

## 学校data

1974年創立／普通科／生徒数862人(男子381人・女子481人)／進路状況(2015年3月実績)大学103人・短大35人・専門学校52人・就職44人・その他15人

★平成26・27年度文部科学省教育課程研究指定校

生徒の自己肯定感の低さに共通の課題意識をもっていた同校教員は、体育祭や文化祭、授業などそれぞれの担当分野で、生徒に自信をもたせる指導を行っ

てきた。井上先生が昨年度まで所属していた進路指導部が中心となり、「生徒の夢をかたちにするキャリア教育」を推進してきたのも、そんな動きの1つだ(図1)。

「中学時代から家庭環境や学習意欲などに課題を抱え、成功体験が少なく、自分のことが好きでないから夢や希望ももてない生徒が大勢いました。とりあえず卒業できればよいという生徒に、日々の学校生活を送らせることで精いっぱい

の状況でした(井上先生)」。自己肯定感をベースとして、高校生活で自分の個性や持ち味を広げ、社会に貢献できる人を育てていきたいと考えています(井上先生)。

「将来志向」の3つだ。」「自己肯定感をベースとして、高校生活で自分の個性や持ち味を広げ、社会に貢献できる人を育てていきたいと考えています(井上先生)。

地域と連携した体験学習を軸に  
3年間のキャリア教育を構築

同校のキャリア教育の中心は、特別活動や総合的な学習の時間などを使って編成した3年間のプログラムだ(図2)。1学年のテーマは「発見」で、事業所体験

や職業人との対話を通じての自分を知る活動が中心となる。2学年のテーマは「体験」で、実際に働く体験を交えて自分の適性に合う進路を探る。3学年のテーマは「実践」で、希望進路別の活動でそれぞれに必要なことを確実にこなしてい

き進路実現を図るという流れだ。近隣の事業所や高齢者施設、保育所・幼稚園、大学などと連携して体験的な活動を盛り込み、進路指導部と学年団が協力しながら実施している。

プログラムの山場は2学年の「夏季体験学習」だ(図3)。「大学・短大」「就職」など5つのコースから、各自が希望進路

に合わせた選択。体験内容に関する調査やマナー指導などコース別の事前学習を実施したうえで、大学の模擬講義やインターンシップなどの体験学習を3～5日間実施する。実施後は、個人およびグループで体験内容をまとめ、発表会を行う。

夏季体験学習に関する生徒アンケートからは、「今後の学校生活に生かせる」83%、「自分の進路決定に役立った」71%など、多くの生徒が有意義な体験を行った様子がわかる。別の質問では、体験により、3つのキーワードの中では特に「将来志向」の伸びが確認できた。

東灘高校  
の取り組み

## 目指す生徒像

前へ向かって進むために頑張れる力を持ち、社会に貢献していくことのできる生徒

## 目指す生徒像に対する課題

さまざまな課題を抱える生徒や、不登校・怠学傾向の生徒、成功体験が乏しい生徒が多く、将来に希望をもったり高校生活に意義を見いだすことが困難

## 取り組み内容

## 体験学習を中心としたキャリア教育

◆2013年度～ 地域連携による体験学習を中心とした、3年間のキャリア教育プログラムを開始

⇒3つのキーワードを重視

「自己肯定感」/「充実感」/「将来志向」

※従来より、問題を起こした生徒に対し多くの教員がかかわる「特別指導プログラム」や、達成感を重視しながら基礎学力を固める「学力向上プログラム」などを体制を整備

## 取り組みによる効果

★学校生活や将来に前向きになる生徒や、自信をもって学校活動に取り組む生徒が増加

★3つのキーワードのうち特に「将来志向」が上昇

★就職試験内定率が大幅上昇

夏季体験学習の事後指導では、個人の報告レポート作成、グループワークでのポスター作成、個人プレゼンテーションなどを実施

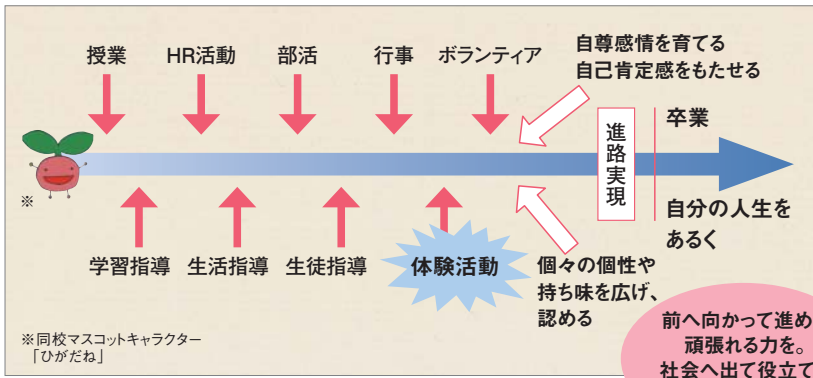


夏季体験学習で大学・短大コースの生徒は、大学の体験講義を受講



夏季体験学習で就職コースの生徒は、介護施設、メーカー、ホテル、店舗などで仕事体験を行う

### 図1 「生徒の夢をかたちにするキャリア教育」の推進イメージ



### 図2 キャリア教育の主な取り組み (2014年度)

	1学年【発見!!】	2学年【体験!!】	3学年【実践!!】
1学期	○事業所体験(LHR) ○職業人と語る(行事)	○夏季体験学習事前指導、マナー指導、アンケート実施(総合・LHR・行事)	○進路別の総合学習(総合・LHR)
夏休み		○夏季体験学習(課外活動)	
2学期	○進路講話(LHR) ○大学見学(行事)	○夏季体験学習事後指導、アンケート実施(総合・LHR) ○職業人講話(総合) ○進路ガイダンス(行事)	○進路別の総合学習(総合) ○よりよい社会人となるために(接遇マナー指導)(総合)
3学期	○進路ガイダンス(行事) ○2年生から1年生への夏季体験学習プレゼンテーション会(行事) ○進路講演会(行事)		
		○卒業生と語る会(行事)	

※( )内は実施した時間

### 図3 夏季体験学習のコース別内容(2014年度)

コース	体験内容(1人3日間以上)
①大学・短大	大学キャンパス施設見学および模擬講義体験学習 + 各自が現在考えている大学主催のオープンキャンパス参加
②専門学校	兵庫県専修学校各種学校連合会主催の職業体験講座参加 + 大学キャンパス施設見学および模擬講義体験学習 + 各自が現在考えている学校主催のオープンキャンパス参加
③保育系	ワークキャンプ3日間参加 + 各自が現在考えている学校主催のオープンキャンパス参加
④医療・看護系	ふれあい看護体験 + 各自が現在考えている学校主催のオープンキャンパス参加 or ワークキャンプ参加
⑤就職	ジュニアインターンシップ or 県庁インターンシップ or 東灘(深江浜)インターンシップ

Editor's Eye

#### 生徒一人ひとりへの「ていねいさ」がカギ

同校の事例からは、オーソドックスな活動でも、教員の対応次第で高い効果を生むことがわかる。自己肯定感の低さは、家庭環境や人間関係に問題が絡んでいる場合も多い。そんな生徒に対して複数の教員が目をかけ、手を入れることで、心の持ち方に変化をもたらした事例だ。勇気を出して将来に向けて進んでいくための自己肯定感を高めるためには、「何を」だけでなく「どこまで」行かなくてはならない。

がっているようだ。

課題意識を共有する教員が、キャリア教育プログラムも活用しながら、それぞれの立場から生徒をサポートすることが、生徒の自己肯定感を高めることにつながっている。

また、生徒の姿からも、自己肯定感の高まりがうかがえる。いつもだるそうで何事にもやる気を出せずにいた生徒は、あるメーカーで事業所体験を行った。「仕事は忙しくてしんどいだけでなく、楽しいことや勉強になることも多いとわかった。こんな会社で働きたい」と感想を語り、その後は生活態度が一変。今、3年生になり、就職に向けて頑張っているという。

「企業で一人の『社会人』として大切に扱われたことで、自分の存在を受け入れ

てもらえたと感じたようです。それで前向きな気持ちになり、将来にも目が行くようになったのではないのでしょうか」(井上先生)

**細やかな指導や声掛けで生徒を多面的にフォロー**

同校のキャリア教育について、「実は新しいことは何もやっていない」と井上先生。しかし、活動の一つひとつ、生徒一人ひとりに対し、時間をかけていねいに対応している。例えば「夏季体験学

習」では、マッチングが難しい就職コースの希望者には進路指導部が全員の面談を行い、適切な事業所に配置する。自信のない生徒がいれば、教員はこまめに声掛けする。井上先生は生徒の体験先での頑張りを学年団や担任と積極的に共有し、多面的なフォローにつなげている。

「生徒を大事だと思っからこそ、ただプログラムをこなせばいいではなく、多くの先生方が細やかに手を入れながらやっています。だから生徒の気持ちは満たされ、実践の効果も上がるのだと思います」

(井上先生)

こうしたていねいさは、問題を起こした生徒に対する「特別プログラム」や、学び直しにより基礎学力を固める「学力向上プログラム」など、幅広い場面で見られる。就職指導でも、生徒一人ひとりをよく見て各企業の求める人材像とのマッチングを行うことで、数年前は1回めの就職試験で内定が決まる生徒は5割程度だったが、14年度は1回めで全員が内定した。教頭の高本正道先生はこう語る。

「全員がベクトルを合わせて、それぞれ担当をていねいにやりきっていることが本校の強み。中学校や地域で、私は『安心してお子さんを本校の教員に預けてください』と胸を張って言っています」